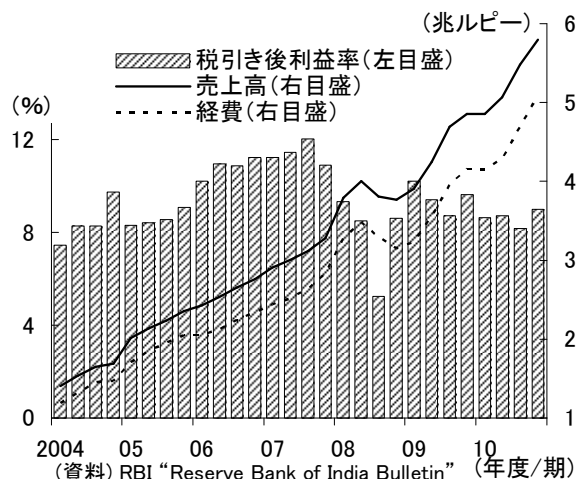


## 力強いインドの経済成長

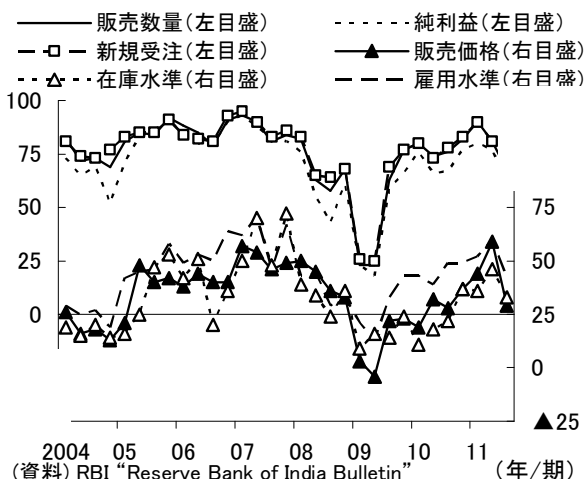
～ 先行き不透明感が今春強まったものの、次第に払拭へ ～

- (1) インドの企業業績が好調（図表1）。売上高は、リーマン・ショックによる反動が一巡した昨年半ば以降、再び増勢加速。前年比増加率は2割弱と5年で倍増するハイペース。コストの増勢も加速したものの、利益率は、税引き後ベースでほぼ10%と高水準を維持。直近の2011年1～3月期は、売上の増勢が続くなか利益率が前期比上昇し、さらに業績改善。
- (2) もっとも、企業の業況判断は今春以降、やや翳りが広がる展開（図表2）。販売数量や新規受注が弱含み、増益ペースが鈍化するなか、販売価格の上昇が抑制され在庫や雇用を圧縮する展開が視野。乗用車販売台数（季調済ベース）が今春以降、減少に転じるなど、金融引締めマイナス影響の拡がりや素原材料高騰を受けた判断。
- (3) しかし、実体経済は今夏前から再び力強い成長軌道に復帰した模様。経済全体の動きを逸早く示唆する物流や電力需要をみると、今年に入って、次第に頭打ち傾向が強まった後、5～6月以降、再びハイペースの増勢に（図表3）。
- (4) 主因は①海外からの資本流入が強まるなか設備投資を中心に内需が強い。②ハイペースの物価賃金上昇が続くなか、実質金利は依然低水準で金融引締め効果は限定的。③加えて海外からのIT需要の盛り上がりの3点。主要業種を対象とした政府の抽出調査によると、昨年来の雇用増はIT分野が牽引（図表4）。インド経済は再び8～9%の高成長に復帰へ。

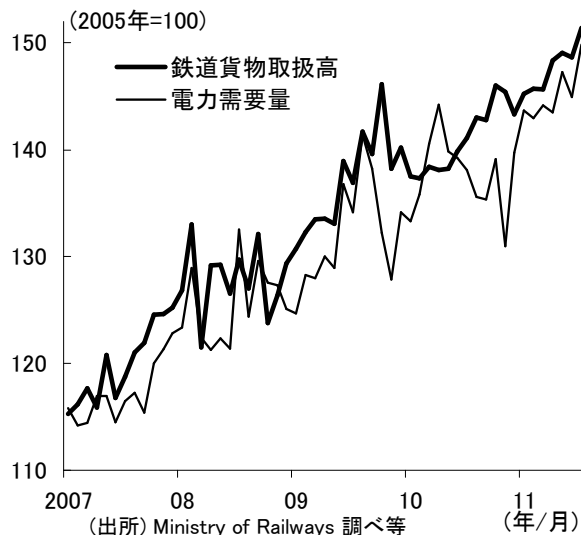
（図表1）インド企業業績の推移（季調済）



（図表2）インド企業の業況判断DI



（図表3）インドの鉄道貨物と電力需要（季調済）



（図表4）インド主要業種の雇用増減（前期比）

